

平成 22 年 4 月 15 日

平成 22 年度病虫害発生予報第 1 号

長崎県病虫害防除所長

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
水稻共通	ヒメトビウンカ（技術情報第 1 号） 縞葉枯病（技術情報第 1 号）	- -	並 やや少
麦類	うどんこ病 赤かび病	やや少 -	やや少 並
ばれいしょ	疫病（注意報第 1 号継続） アブラムシ類 ジャガイモガ	多 やや少 並	多 やや少 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや多 並 やや多	やや多 やや多 やや多
いちご （本圃）	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや多 並 やや多 少	やや多 やや多 やや多 少
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並 やや少 並	並 やや少 並
なし	赤星病（防除情報第 2 号） 黒星病（注意報第 2 号） アブラムシ類	やや多 やや多 並	やや多 やや多 並
ぶどう	黒とう病	並	並
果樹共通	カメムシ類	並	並
茶	カンザワハダニ チャノキイロアザミウマ クワシロカイガラムシ	並 やや少 並	並 やや少 並

【発生予報】

本文の（ ）内は平年値

水稻共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

平成 22 年 4 月 15 日付病虫害発生予察技術情報第 1 号による。

麦類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の巡回調査(二条大麦9筆、裸麦6筆、小麦15筆)の結果、小麦では発病茎率は0.3%(1.5%)、発生圃場率は6.7%(15.0%)であった。二条大麦、裸麦では発生を認めなかった(二条大麦・裸麦：発生を認めない)。
- イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(二条大麦：発生を認めない。裸麦：0.0%、小麦：0.8%)。

2. 赤かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- イ 4月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 出穂期以降、曇天・降雨が続く気温が20~27と比較的高くなると多発するので今後の気象の推移に注意し防除を徹底する。
- イ 防除薬剤は予防効果主体で発生を認めてからの防除では効果が劣るので予防散布に努める。
- ウ 小麦、裸麦では開花最盛期(出穂期の概ね7日後)とその7~10日後の2回、薬剤散布する。
- エ 二条大麦では穂揃い期の10日後の薬剤散布が効果が高いので、防除時期を逃さないようにする。
- オ 麦種によって同一薬剤の使用基準が異なるので、使用にあたっては収穫前日数に十分注意する。

**ばれいしょ**

1. 疫病

平成22年4月9日付病害虫発生予察注意報第1号を継続。

その後の発生状況は以下のとおりである。

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発病株率は0.1%(過去10カ年の平均0.0%)発生圃場率は20.8%(過去10カ年の平均0.8%)であった。

2. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、寄生株率は1.9%(8.2%)、発生圃場率は37.5%(56.3%)であった。

3. ジャガイモガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(24筆)の結果、発生を認めなかった(被害株率0.1%、発生圃場率1.2%)。

## トマト

### 1. 黄化葉巻病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は4.9%(前年0.4%、前々年1.7%)、発生圃場率は25.0%(前年33.3%、前々年50.0%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

コナジラミの防除を徹底するとともに、発病株の抜き取りおよび適正処分を徹底する。

### 2. 灰色かび病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.4%(0.7%)、発生圃場率は41.7%(35.4%)であった。

イ 向こう一か月は平年に比べて曇りや雨の日が多い見込みであり、本病の発生に好適である。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多湿にならないよう圃場の排水に留意し、換気をこまめに行う。

イ 発病した果実や枯死葉は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外へ持ち出して適切に処分する。

ウ 耐性菌発達防止のため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

### 3. コナジラミ類

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は6.6%(1.9%)、発生圃場率は33.3%(30.2%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア トマト黄化葉巻ウイルスの伝染環を遮断するため、ウイルス保毒虫が野外に分散しないよう、発生初期に防除する。

イ タバココナジラミは強い薬剤抵抗性を持つので、薬剤の選定にあたっては十分留意する。

## いちご

### 1. うどんこ病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや多

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、葉の発病株率は1.2%(0.3%)、発生圃場率は14.8%(8.6%)、果実での発病果率は0.3%(0.2%)、発生圃場率は11.1%(9.3%)であった。

#### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多発すると防除が困難になるので、早期発見、早期防除に努める。

- イ 発病葉や発病果実は伝染源となるので、圃場外へ持ち出し、適切に処分する。
- ウ 発生を認めたら治療効果のある薬剤を1週間程度の間隔で散布し、防除を徹底する。
- エ 薬剤は、葉裏や下位葉にもむらなくかかるように十分量を散布する。
- オ 薬剤耐性菌発達の防止のため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

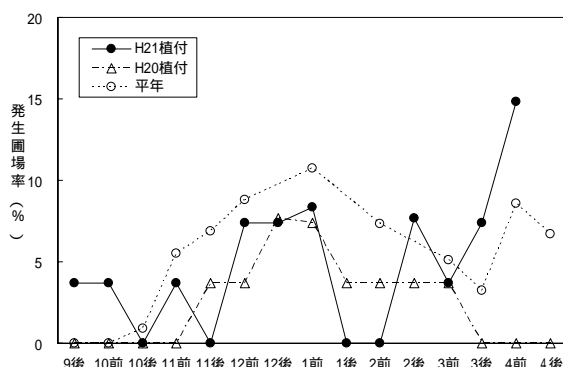


図 いちご うどんこ病 発生圃場率の推移

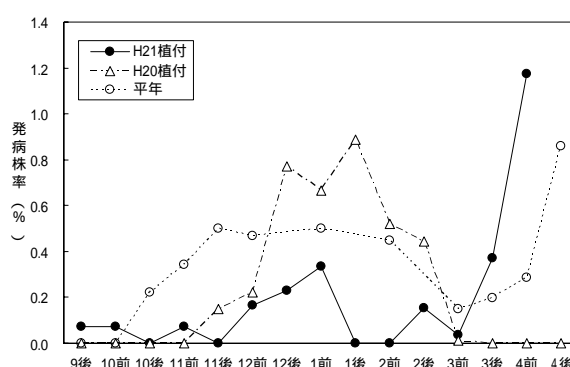


図 いちご うどんこ病 発病株率の推移

## 2. 灰色かび病

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

ア 4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.7%(0.1%)、発生圃場率は14.8%(13.0%)であった。

イ 向こう一か月は平年に比べて曇りや雨の日が多い見込みであり、本病の発生に好適である。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 多湿にならないよう圃場の排水に留意し、換気をこまめに行う。

イ 予防的な薬剤防除に努める。曇雨天時はくん煙剤を利用する。

ウ 発病した果実や枯死葉は、伝染源となるので速やかに取り除き、施設外へ持ち出して適切に処分する。

オ 薬剤耐性菌発達の防止のため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

## 3. アブラムシ類

### (1) 予報内容

発生程度 やや多

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.0%(0.8%)、発生圃場率は25.9%(7.2%)であった。

### (3) 防除上注意すべき事項

ア 気温上昇にともない有翅虫の飛来が多くなるため、発生に注意し、発生初期に防除を徹底する。

イ 薬剤抵抗性の出現を避けるため、系統の異なる薬剤をローテーション散布する。

## 4. ハダニ類

### (1) 予報内容

発生程度 少

### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は1.4%(11.0%)、発生圃場率は25.9%(44.9%)であった。

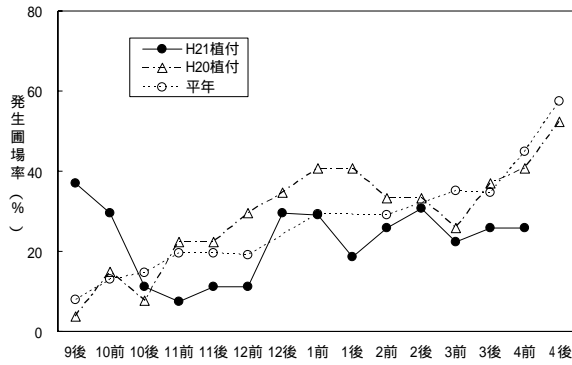


図 いちごハダニ類 発生圃場率の推移

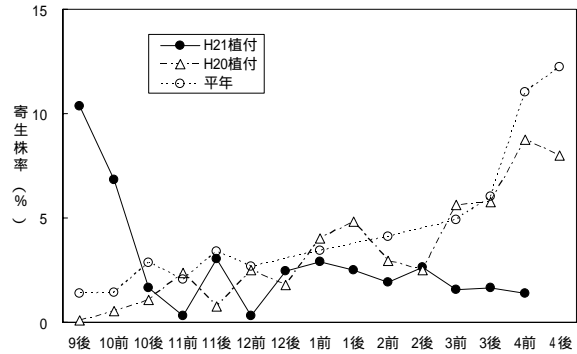


図 いちごハダニ類 寄生株率の推移

## かんきつ

### 1. そうか病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発病を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.9%)。

イ 4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、新葉での発生を認めなかった(発生を認めない)。

### 2. かいよう病

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

ア 3月下旬の巡回調査(39筆)の結果、旧葉での発病葉率は0.0%(0.3%)、発生圃場率は2.6%(18.6%)であった。

イ 4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、新葉での発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.1%)。

### 3. ミカンハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は1.1%(2.0%)、発生圃場率は20.5%(24.4%)であった。

## なし

### 1. 赤星病

平成22年4月15日付病害虫発生予察防除情報第2号による。

### 2. 黒星病

平成22年4月15日付病害虫発生予察注意報第2号による。

### 3. アブラムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生新梢率は0.6%(0.4%)、発生圃場率は33.3%(24.0%)であった。

## ぶどう

### 1. 黒とう病

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.2%)。

## 果樹共通

### 1. カメムシ類

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

ア 1~2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬量調査の結果、常緑広葉樹林の落葉中の虫数は0.48頭/m<sup>2</sup>(0.51頭/m<sup>2</sup>)と平年並であった。  
イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺(4月1半旬~2半旬)は、平年並で推移している。

## 茶

### 1. カンザワハダニ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は0.9%(1.3%)、発生圃場率は18.8%(28.9%)であった。

### 2. チャノキイロアザミウマ

#### (1) 予報内容

発生程度 やや少

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、たたき落とし虫数(5回×4カ所当たり)は2.4頭(5.4頭)、発生圃場率は93.8%(54.7%)であった。

### 3. クワシロカイガラムシ

#### (1) 予報内容

発生程度 並

#### (2) 予報の根拠

4月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生株率は9.3%(9.8%)、

発生圃場率は75.0%（50.8%）であった。

【参考】

気象

(平成22年4月9日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

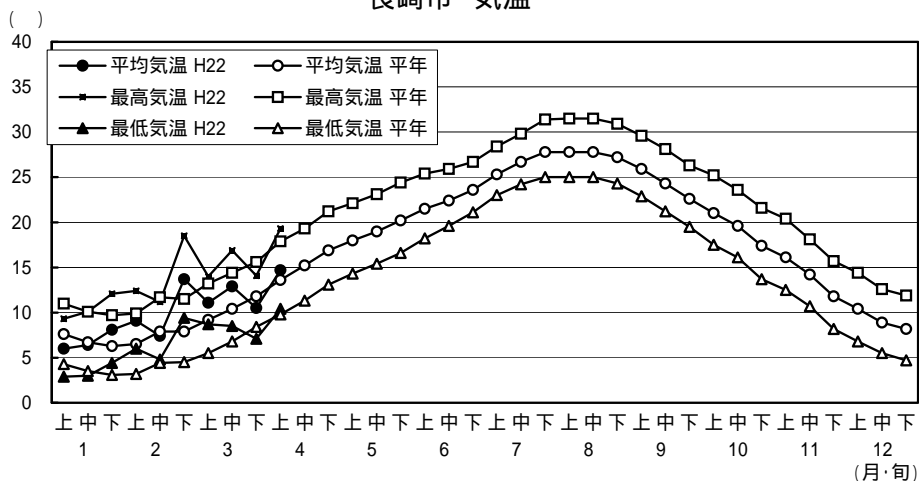
要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	50	30	20
降水量	20	40	40
日照時間	50	30	20

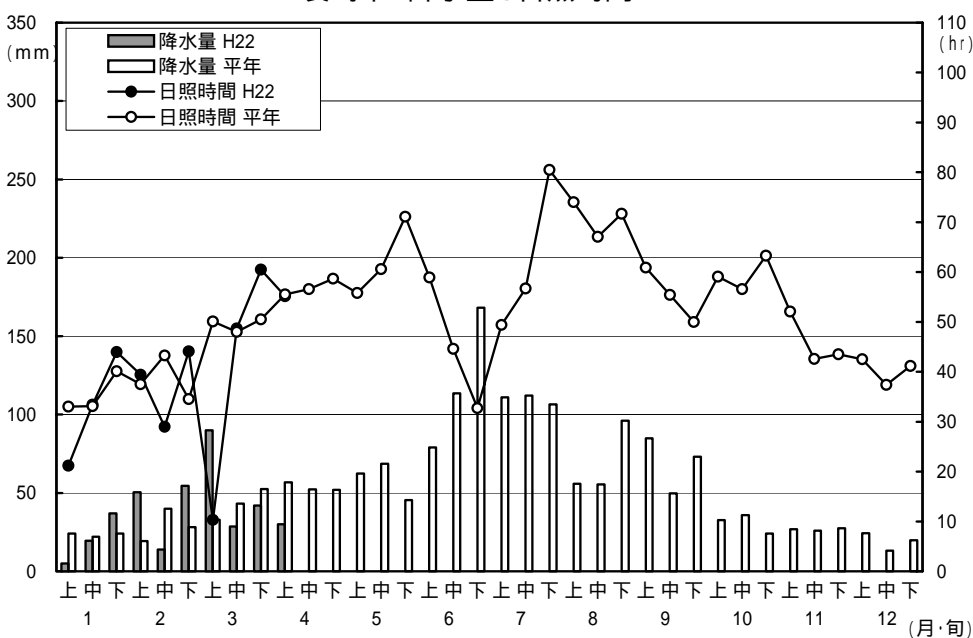
予報対象地域：九州北部地域

平成22年の気象経過 (長崎海洋気象台)

長崎市 気温



長崎市 降水量と日照時間



病虫害防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jpnn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病虫害防除所 TEL：0957-26-0027